

めぐみイエス・キリスト教会

2021年6月6日(日)第一主日礼拝
週報「通算第560号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌311「いかに恐るべき」 p. 494

【交読文】 No.8詩篇第24篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.16「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 使徒の働き9章10節～19節前(新約p. 250下段左側)

【礼拝説教】 《アナニアによって》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.「ダマスコ途上」において起こったこととは？

※使徒の働き9章1節～8節「主イエスと迫害者サウロ」(新約p.250上段)

9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き、大祭司のところに行って、

9:2 ダマスコの諸会堂宛ての手紙を求めた。それは、この道の者であれば男でも女でも見つけ出し、縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

9:3 ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

9:4 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか。」

9:5 彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「私は、あなたが迫害しているイエスである。」

9:6 立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならぬことが告げられる。」

9:7 同行していた人たちは、声は聞こえてもだれも見えないので、ものも言えずに立っていた。

9:8 サウロは地面から立ち上がった。しかし目を開けていたものの、何も見えなかった。それで人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。

●ポイント2. 「彼は三日間、食べることも飲むこともしなかった」とは？

※ルカの福音書5章33節～35節「主イエス様の預言」(新約p.119下段)

5:33 また彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」

5:34 イエスは彼らに言われた。「花婿と一緒にいるのに、花婿に付き添う友人たちに断食させることが、あなたがたにできますか。」

5:35 しかし、やがて時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」

●ポイント3. 「アナニア」とは？

※使徒の働き22章12節～16節「使徒パウロの証しから」(新約p.281下段)

22:12 すると、律法に従う敬虔な人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い、アナニアという人が、

22:13 私のところに来て、そばに立ち、『兄弟サウロ、再び見えるようになりなさい』と言いました。するとそのとき、私はその人が見えるようになりました。

22:14 彼はこう言いました。『私たちの父祖の神は、あなたをお選びになりました。あなたがみこころを知り、義なる方を見、その方の口から御声を聞くようになるためです。』

22:15 あなたはその方のために、すべての人に対して、見聞きしたことを証しする証人となるのです。

22:16 さあ、何をためらっているのですか。立ちなさい。その方の名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』

◎先週のメッセージの概要【朝の九時】

《主イエスが約束された聖霊は、五旬節の日の朝の九時に、地響きと共に、マルコの家にはいた使徒たちの所へ降って来られました。その大きな物音を聞いて、大勢の人々が集まってきます。この人々は、ディアスポラと呼ばれたユダヤ人で、ギリシャ語で読み書き話す人々でありました。

シモン・ペテロは、聖霊に満たされ、力強くメッセージを語り始めます。「今は朝の九時ですから、この人たちは、酔っているのではありません。これは、預言者ヨエルによって語られたことです。」と。そして続けて、「神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」と、明確に彼らの罪を指し示したのです。

ディアスポラと呼ばれるユダヤ人は、ローマ帝国内の国々に散らばっており、彼らは大変に裕福であって、エルサレム市内に自分の家を持っています。彼らは、過越の一週間前にエルサレムに到着し、身を清め備えると共に、過越の祭を巡礼し、そして五十日目に行なわれる五旬節の祭を過ごしてから、それぞれの国に戻ることに慣わしとなっていました。

つまり、彼らは、主イエスのエルサレム入場であるシュロの日には、すでにエルサレムに到着しており、そして主イエスの裁判の時も、十字架刑の時にも、その場にいたこととなります。アントニア要塞における最終裁判において、ローマ総督ピラトは群衆に問いかけます。「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」しかし、群衆は、極悪犯罪人バラバの釈放を要求し、主イエスの十字架刑を要求したのでした。「十字架につけろ。」と。

つまり、今マルコの家の前に集まっている群衆は、「十字架につけろ」と叫んだ者たちなのです。だからこそ、彼らはシモン・ペテロのメッセージに心を刺されたのです。聖霊は、罪について、世の誤りを明らかにさせられます。この日、何と三千人がバプテスマを受けて、新たに仲間に加えられます。この日、聖霊によってエルサレム初代教会が誕生したのです。》

◎お知らせ

※次回主日礼拝は6月13日(日)教会にて通常とおりに行ないます。聖書勉強会・祈り会は6月9日(水)各家庭にて行ないます。